

# なぜ「なぜ」が話せないのか

(58)

## 会話上達法第三部

NHKの元テレビ会話講師、松本道弘さんは、英語の壁をどう破ったかについて、次のように話している。

日本人にとって最も苦手なのは「Why?」(なぜ)と聞くこと。欧米では当たり前な質問なのに、相手の腹を探るので日本では一番嫌われる。皇国で単一民族のわが国では、わざわざ口に出さなくても相手の考え方は以心伝心わかることが多い。だからアメリカ人から「Why?」と聴かれて、すべし「Because」(なぜ)と答えられるまで

には時間と訓練が必要になる。

## 大切な本を読む努力

### 欧米の発想法の練習も

「なぜ」「なぜなら」の形式が三十回

例えば、日系米人の三世、二世の違いを見分ける方法は、ジェスチャーの差でもある程度分かるが、「Why?」「Because?」の使用頻度によっても察しがつく。日米両国の差を端的に示せば、米国映画の「Why」「Because」

e」は、直線の論理で、会話を勉強する人は論理をはっきり言ったり「イエス」「ノー」をきちんと表現することが大切。英語国民と日本人との発想の違いを学ぶのが上達の秘けつである。

いが介在している。例えば、日本人の表現は「According to the Nishinippon Shinbun」(西日本新聞によると)というが、欧米人なら「In my experience...」(私の経験から言えること)は、まず何よりも「インプット」(読むことと聞くこと)。そして「アウトプット」(話す)。語学に近道はなく、英米雑誌を読む、テレビドラマの二カ国



論理的な会話を身に着けようと語る松本道弘氏

画やネイティブ同士の話ばかりにない。英字新聞でも日本人の書いた原稿はやさしく、英米人のはむずかしい。確かに発音や話すスピードが一つの壁になってはいるが、どうもそれだけではない。思考、発想の違いが肌で感じる努力をしなさい。松本さんは、海外生活の経験もないのに、英米人の少なくとも半分は書物で埋めるべきです」。